山口県医療の風便り No.4

発行所　山口県健康福祉部医務保険課
〒753-8501 山口市滝町 1-1
TEL 083-933-2924 FAX 083-933-2939

平成１８年１２月１日号

写真：夕日を受けて来院。風邪をひいたお子さんとやさしいお母さん（前川　恭子医師 撮影）

「地域医療の現場より（萩市むつみ診療所　前川恭子医師）」　……2

「萩市むつみのプロフィール」　……5

「第２回 医師を理解するセミナーが開催されました！」　……6

「山口県内医療機関紹介」（周防大島町立東和病院）　……7

今後継続発送を希望される方の手続き方法　……7

「地域医療の現場より（萩市むつみ診療所　前川恭子医師）」

～「住民自身が、自分の体の一番の主治医に」へき地のさわやか女性医師　～

第４回の「地域医療の現場より」は、平成１３年度から萩市むつみ診療所で勤務されている女性医師　前川恭子さんにお話をうかがいました。

前川恭子（まえかわきょうこ）医師プロフィール
東京生まれの萩育ち。
平成4年に自治医科大学を卒業。
旧山口県立中央病院にて卒後臨床研修を受けた後、平成7年に錦中央病院（岩国市、旧錦町）に赴任。
平成12年に旧山口県立中央病院で後期研修を受けたあと、平成13年より、むつみ診療所に赴任。現在に至る。

★ユーモアを交えながらも、誠意ある診療を実践されていることが伝わってくる「さわやか女性医師さん」です

Q：今日は、萩市のむつみ診療所でご活躍の女性医師、前川先生にお話いただきます。どうぞよろしくお願いします。

（前川先生）こちらこそよろしくお願いいたします。

Q１まず、先生が地域医療に興味をもたれたきっかけなど、教えてくださいませんか。

医師にあこがれ始めたのは、小学生の頃です。カルピス劇場の「母を訪ねて三千里」に出てくる医師が、治療費をとらずに診察をしていたのを見て感動しました。

でも、その後は金銭的に医学部をあきらめていました。ただ、「将来自分の子供を育てる時のために、手に職をつけておきたい」と思っていました。また、子供を育てる親として、自分の中に多様な価値観を受け入れる器を作っておく必要があるんじゃないか、とも考えていました。

高校3年の秋、進路指導の先生が自治医科大学を勧めてくださり、夢が現実に近づきました。

医師という職業は、大変な仕事だろうとは分かっていましたが、その一方で、医療現場では、体のつらい状態で受診される色々な患者さんの、弱いところ・強いところなども含め、「多様な価値観」と向き合うことになるのではないか、そして、地域医療ではじっくりと余裕を持って見ることができるのではないかと考えていました。そして、今、正にその通りとなっています。

Q２ここに赴任される前、診療所勤務を意識した内容で、臨床研修を受けられたそうですが、どういったものだったのでしょうか。

このむつみ診療所に勤務する前、旧山口県立中央病院において、耳鼻科外来、麻酔科外来、救急外来の研修を受けさせていただくようお願いし、指導していただくことができました。

耳鼻科では、外来における耳鼻科診療の技術を磨きスキルアップすることができましたし、麻酔科外来では、痛みに対するアプローチの勉強をさせていただきました。また、県立中央病院の日中の救急外来は、症状の比較的軽い人から重症の方までが多数受診されました。ある意味「診療所の外来」に似通った部分を持っていましたので、へき地診療所勤務をひかえていた私にとって、事前研修として非常に良い場所でした。

耳鼻科で習得したテクニック、麻酔科外来で教えていただいたセオリー、同時に多数の患者さんが押し寄せることもある救急外来の

状況を経験できたことは、現在、大変大変役に立っております。

Ｑ３むつみに来られて、今年で６年目を迎えていらっしゃるわけですが、地域医療を長く継続されている理由は？

もともと総合病院よりも「地域の診療所」で診療することを望んでいたことが一番の理由です。

また、以前、錦中央病院で5年間にわたり勤務したのですが、その地域住民の患者さんたちから、多くのことを教えていただきました。

その影響もあって「自分の思いを残すためには、一箇所で10年程度はいたほうが良いのではないか」と考えるようになり、現在は、ここ「むつみ」に居座っています。

Ｑ４先生ご自身の「モットー」は何でしょうか。

自分自身が楽しいこと、幸せに感じることを実行することが、良い仕事に結びつく、と信じています。

Ｑ５先生が診療する上で目指していることは？

「自分の体のことをよく知っている一番の主治医は自分自身である」と住民一人一人がなることが、本当にすばらしいことだと思います。

旧むつみ村の方々は、自然と向き合いながら農作業・畜産をされます。その中で、多くの方が一生懸命になり過ぎ、自分の体や気持ちを酷使し体調を崩されます。日頃の生活や仕事の中で、田畑の作物を育てるように、自分の体にも気持ちを向け手をかけてあげたならば、体調を崩すことも少なくなるのに、と残念に思うことがよくあります。

「住民自身が、自分自身の一番の主治医に」なれるよう、「お手伝い」することが私の役目だと思います。そういう姿勢で診療していますが、患者さんたちが、段々、自分の体の「調整」を、自分の力でできるようになった時には、大きな喜びを感じます。

Ｑ６先生が診療していて「楽しい」と感じるのはどんなときでしょう？

そうですね、いろいろありますが。

まず、楽しい、嬉しいと感じることは、なんといっても「診療そのもの」です！！

診察中に患者さんと冗談を言い合える時、職員さんも楽しそうな時、ある患者さんについて誰かと思いを共有できる時はいいですね。地域医療ならでは、といえます。

それから、「ありがたい」と感じる時もたくさんあるのですよ。薬草・農作物・季節・動物など私の知らないことについて、患者さんが教えてくださる時。そして、診察終了時「お大事に」と患者さんに言うと、患者さんが「先生もお体を大切に」と言ってくださる時など。

(左写真について)
「宴会やカラオケではありませんよ。地域の健康講話会の一場面です。」と前川先生。
先生のお人柄が出ている写真といえます。

また、診療所内の診療以外に、地元の学校で「学校医」として児童さんたちの健康管理に関わったり、看護学校の講師などもしています。

講義などで、私の話の内容に、生徒さんたちが強い関心を持って強くリアクションしてくれる時にはうれしいですね。

Ｑ７「つらい」と感じる場面などがあれば、教えていただけますか？

正直、辛いなぁ、と感じる時もありますよ。なんといっても、医師は私一人ですから、自分自身がインフルエンザや嘔吐下痢症にかかって体調不良のときは「つらい」ですね。

職員も同じで、すぐに交替して休ませてあげられるマンパワーの余裕はそれほどないので、辛そうに業務をされている時には申し訳なく、私もつらく思います。

また、当診療所は公立診療所ですから、予算的な制約、他の多くの方々との調整の上で運営されています。そんな中、医療の現場を知らない人たちから、無理解とも思える発言や決定を受けて、「もっと地域医療現場を分かってほしい」と思うこともないわけではありません。

Ｑ８そんな中、先生の「支え」になっているものは何なのでしょうか。

家族、職員、患者さん、いざというとき助けてくれる先輩たちです。

Ｑ９今後の抱負やこういう診療をしてきたいと思われることがあれば教えて下さい。

いろいろありますよ。そうですね…。

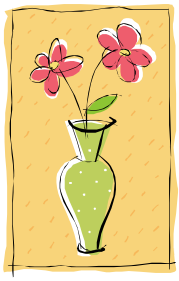
地域医療の現場、特にへき地では、医師だけでなく事務や看護師もがんばっていますが、先ほども述べたように、つらいと思うこともあります。地域のいろいろな職種の医療従事者が、疲弊しにくいシステム作りを何とかできないだろうか？と思っています。

疲弊しにくいシステムは、結果的に、子育て中または将来子育てするであろう医師を含めた女性医療従事者が働きやすいシステムにもなると考えます。

それから、将来大人になったときに、自分の体を自分の力である程度守ることのできるよう、その基礎になる「力」を持ってもらいたい。そんな思いから、小学生・中学生たちに、自分の体のことに興味を持ってもらうお手伝いをしたいですね。

それから、生活の中にも科学的な視点を取り入れ、例えば、高齢者の方々の農作業中の動作を個別に評価し、作業動作を工夫するように医療的に分かりやすくアドバイスするなどして、変形性関節疾患や筋・筋膜疾患の予防に努めたいと思っています。高齢の方が入浴後体をふく時間帯にご自宅にお邪魔して、ローションと保湿剤をぬり、乾燥で増悪する皮膚疾患を予防、名づけて「ローションぬりぬり隊」なんかもいいなぁ、と思っています（笑）。

（左写真について）
「夏でも冬でも、マスク離さーず」。明るい職員さんたちと、患者さんのひとコマ。



Ｑ１０若い読者（これから医療の仕事をしたいと思っている人や医学生など）にメッセージをお願いします。

仕事は本気ですれば、医療分野に限らず何でも大変だと思います。辛いことがあっても、その仕事の中に心の底から楽しいと思うことのできるものを見出せれば幸せです。

私は自分が辛いとき、仕事を続けようか迷うとき、自分の中を探すといつも「初心」というか「原点」のようなところに戻っていきます。「自分が本当に大切だと思うもの」が自分でわかっていれば、少しずつでも前に進むことができると思います。どうぞ、がんばりすぎずに、がんばってください。

○　先生、これからも、体調にお気をつけいただき、先生の目指す地域医療を展開してください。お忙しい中、本当にありがとうございました。

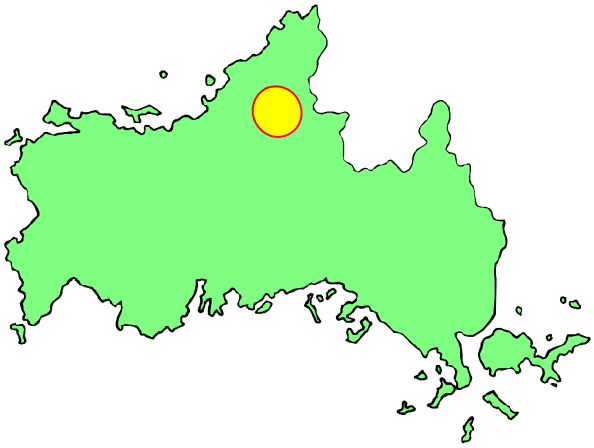
（下写真：診療所の待合室で。）

【萩市むつみのプロフィール】

２００５年３月６日に、市町村合併により新しい萩市の一部となった、山口県の北部に位置する奥阿武の美しい自然に囲まれた地域です。北東部から南西方向にかけて、中国山脈背陵部の６００m台の山々、北部から西部には５００m台の山々が連なっており、約７割を山林が占めています。

主要産業は農林業で、準高冷地の気候条件と肥沃な土地条件を利用したコシヒカリなどの水稲、千石台大根、高級メロン、高俣トマト「桃太郎」、レタス、スイートコーン、キュウリなどの野菜、および肉用牛生産などがあります。

合併前の村名「むつみ村」は、昭和３０年に２つの村が合併した際、「むつみ合う里」という意味をこめ、全国でもめずらしいひらがな名にしたのだそうです。



県と山口大学医学部の協同で

第2回 医師を理解するセミナーが開催されました

山口大医学部と県がタイアップした「医師を理解するセミナー・パート２」は、８月２１日、同学部であり、県内の高校生５０人が学生からアドバイスを受けたり、顕微鏡下での外科手術を体験したりした。

地方の医師不足解消のため、医師という職業を理解し、地元で活躍する契機にしてもらおうと企画した。８日に行ったパート１に続くセミナーで、今回は講義や実習体験を盛り込む一歩突っ込んだ内容。県内の高校２、３年生が参加した。

同学部大学院医学系研究科総合診療医学分野の福本陽平教授が「医のプロフェッショナルを目指す君へ！」と題して、医師という職業のやりがいや責任について話した。体験学習では「脳と心臓の真実に触れる」「最先端の脳外科手術をライブで見よう！」の二テーマに分かれて、学生の講義・実習を模擬体験した。

顕微鏡を見ながら行う縫合手術体験では、脳神経外科の医師から指導を受けながら、人体の代わりに鶏の手羽先を使って糸を縫合。ピンセットとはさみを手にした参加者は、悪戦苦闘しながら盛んに手を動かしていた。

土井結美子さん（下関西高３年）は「同級生が病気で亡くなるのを体験し、病気の人を救いたいと医師を志した。手先は器用と思っていたが、縫合体験では手が震えた」、梶山公裕君（大津高３年）は「両親が開業医をしているので、医師という職業を身近に感じている。内科医を目指して、これからまず受験を突破したい」と話した。

午後からは現役の学生や附属病院の若い医師から、学園生活や医師という職業について、経験に基づいたアドバイスを受けた。

（写真・内容とも、宇部日報より掲載）

山口県内医療機関紹介　～周防大島町立東和病院～

病院データ

○住所
大島郡周防大島町大字西方５７１番地１

○開設年月日
平成１６年１０月１日

○病床数
１３１床

○診療科目
内科・外科・循環器科・整形外科・眼科・泌尿器科・皮膚科・放射線科・婦人科・リハビリテーション科

○併設施設
居宅介護支援事業所・健康管理センター

当院は山口県の東南部、大島郡周防大島町の東部（旧東和町）に位置し、温暖な気候で、紺碧の海と無数の島々に囲まれ自然環境に恵まれた周防大島の中核的な病院であります。

ベッド数は一般１３１床で、１１の診療科を常勤医師８名と非常勤医師６名で診療を行っており、主要な設備及び医療機器としては、２つの手術室、人工透析設備、MRI、ヘリカル CT などがあります。

これら最新鋭の設備、機器をフルに活用し、地域住民の方々が安心して暮らしていただけるよう、地域住民に愛され、親しまれる病院づくりをモットーに職員一丸となって邁進しているところです。

この「山口県医療の風便り」を今後も継続希望される方の手続き方法

寒くなってまいりました。第４号は、いかがでしたでしょうか？ こころがほんのり温かくなっていただけたのではないでしょうか。

この「山口県医療の風便り」は、今後も年３～４回、いろいろな視点から情報を幅広く集め、内容を充実させながら、無料で発送させていただく予定です。

次回第５号以降も、ご希望の方々に発送させていただくこととしております。

つきましては、今後の発送をご希望される方は、お手数ですが、

①ご氏名　②ご年齢　③ご住所（送り先）　④メールアドレス（お持ちの場合）

をご記入の上、**●ＦＡＸ**（裏頁の申込書を使用）または**●電子メール**（「山口県医療の風便り継続希望」とご記入ください）にてお申し込みください。

あわせて、この内容についてのご意見やご希望、さらには、「読者より一言！」への投稿（400 字以内でお願いします。）などもお待ちいたしております。

※　なお、これまでに「継続希望」のお申込みをいただいた方は、改めてお申込みいただく必要はございません。

申込先：
山口県健康福祉部医務保険課（担当石丸）宛て
〒７５３－８５０１　山口県山口市滝町１－１
ＦＡＸ：０８３－９３３－２９３９
メール：ishimaru.yasutaka@pref.yamaguchi.lg.jp

山口県医療の風便り継続申込書　　ＦＡＸ：０８３－９３３－２９３９

（山口県健康福祉部医務保険課　担当（石丸）行）

●*今後も「山口県医療の風便り」の発送を希望します。*

ご氏名	
ご年齢	
ご住所（ご送付先）	（〒　　－　　）
ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ **(お持ちの場合)**	@
この山口県医療の風便りに関するご意見やご希望など（自由記載欄）	

発行所　　山口県健康福祉部医務保険課

〒753-8501 **山口市滝町** 1-1

TEL 083-933-2924 FAX 083-933-2939